

第2回 鈴木大拙-西田幾多郎記念『金沢大学国際賞』授賞式記者会見挨拶

著者	柴田 正良
著者別表示	Shibata Masayoshi
発行年	2019-12-26
URL	http://hdl.handle.net/2297/00056589



記者会見原稿（抄）

令和元年 12 月 26 日

金沢大学国際賞選考委員会委員長
柴田正良（金沢大学理事・副学長）

遊佐先生は現在、西ワシントン大学の教授を務められておりますが、国際基督教大学の学士課程をご卒業後、カリフォルニア大学サンタ・バーバラ校の大学院に進まれ、そこで西田幾多郎とフランスの哲学者ジャック・マリタンの比較研究で博士号を取得されました。その後は、西ワシントン大学や、母校のカリフォルニア大学サンタ・バーバラ校、またブリティッシュ・コロンビア大学など、世界各地で国際的なレベルの教育研究に従事されておられます。

この度、遊佐先生が本国際賞を受賞された最大の理由は、普遍的な価値や真理がその力を素直には発揮できない息苦しい困難な時代、現代にあって、哲学や宗教の普遍性を、それが生まれた文化や言語の特殊性にまで遡って明確に示そうとした、極めて挑戦的な試みにあります。

そもそも、普遍的なものはそれ自体では捉えられず、何らかの特殊性の衣を纏ってしかわれわれには現れません。哲学や宗教もまた、普遍と特殊のその一見した矛盾の中にあるのですが、その関係性は、ギリシャ哲学や、ドイツ観念論や、イギリス経験論など、それぞれにおいて異なっています。遊佐先生は、日本における西田幾多郎と鈴木大拙という特殊性がいかにして普遍的な価値の創造に参与しているのかを研究することによって、間文化的哲学（inter-cultural philosophy）という独自の観点に到達されました。これは、世界史において幾つかの塊として存在した、哲学や宗教の特殊性同士を積極的に対話させ、そこから新たな文化、進化した言語を背景に今一度、人類固有の普遍的価値を呼び起こそうとする時代の声、あるいは天の声に他なりません。

遊佐先生には、今後とも、この先駆的な役割を揺るぎなく果たしていかれることを、選考委員一同、強く期待いたしております。

以上、はなはだ簡単ではありますが、この度の選考経過に関する、私からの説明とさせていただきます。